

## 八潮市の課題の整理

---

前述の地域福祉を取り巻く社会動向や本市の地域福祉を取り巻く概況、更に各種調査結果や困難事例把握調査などの現状から、本市の課題を次のように整理します。

### (1) 身近なつながりづくり

---

本市の人口及び世帯数は年々増加しており、特に 20～30 歳代の転入超過が顕著に見られます。一方で、1 世帯あたり人員や、町会・自治会への加入世帯は年々減少しており、困難事例把握調査では、町会・自治会に加入していない転入者や一人暮らし世帯等を把握することが困難であると報告されています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域での行事や集まり等ができない状況が続いており、若い子育て世帯や高齢者世帯等が孤立し、その把握は容易ではないことが想定されます。

そのため、社会構造の変化やコロナ禍での暮らしの変化等を踏まえ、身近なつながりを再構築し、新たな日常の中でのコミュニティ活動を推進していくことが重要です。

### (2) 地域を支える人材育成

---

地域福祉を推進するためには、地域の担い手となる人材の確保・育成が欠かせません。本市にはおよそ 200 のボランティア活動団体・市民活動団体等があります。八潮市社会福祉協議会を中心に、地域福祉を担う人材や活動団体の育成・支援を進めていますが、担い手の高齢化や次代の担い手となる世代の参加が少ないなど、活動の担い手は不足しており、人材の確保・育成が課題となっています。

地域の福祉を高めるための対応策としては、福祉教育の推進が求められており、学校や身近な地域、職場等において、福祉に対する理解を深めるための学習機会を増やすなど、福祉意識の向上を図る必要があります。

さらに、人と人、人と団体等をつなぐネットワークを構築・強化するとともに、広く地域に展開していくことが重要です。

### (3)安全・安心の確保

---

市民意識調査における市政に対する満足度と重要度の関係をみると、満足度が低く重要度が高い項目として、「子育て環境の充実」や「医療体制・制度の充実」、「道路の整備」、「公共交通機関」、「防犯対策の充実」などが挙げられており、暮らしの安全・安心につながる施策に関するニーズが高くなっています。

本市では、少子高齢化や核家族化が緩やかに進む中で、子育て世代や高齢者世帯等も年々増加しており、こうした生活ニーズを踏まえた地域づくりを推進することが重要です。

また、近年頻発する自然災害等の緊急時の支援体制を充実するとともに、新型コロナウイルス感染症等の感染症発生時の支援やサービス提供体制についても整備・周知する必要があります。

さらに、国及び県の考え方を踏まえて、生活困窮者の自立支援や自殺対策、再犯防止等、福祉の各分野に共通する取組についても本計画に位置付ける必要があります。生活困窮者への支援や更生保護の取組等については、困難事例把握調査においても今後の課題として報告されており、具体的な施策を検討していくことが求められます。

### (4)包括的な支援体制の構築

---

現在、高齢者世帯や単身世帯の増加、社会的孤立などの影響により、市民の生活上の課題は、様々な分野の課題が絡み合って「複雑化」し、また、個人や世帯において複数の分野にまたがる課題を抱えるなど「複合化」しています。

また、地域の中で孤立し、生活に困難を抱えながらも、誰にも相談しない又はできない、あるいは適切な支援やサービスに結びつかないことなどにより、問題が深刻化しているケースが増えています。

加えて、各種アンケート調査において、本人のみならず、身近な家族や介助者等への支援も重要であることがわかりました。

そのため、各分野が相互に連携しながら、地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応する包括的な支援体制を構築し、制度の狭間を作らない地域づくりを推進することが求められます。